

## 各地での団体の取組み(2)



### 【倶知安町】 ニセコ伝承の森つくる会

報告者 阿南 敬三 氏

(NPO法人自然生活体験センター冒険家族)

私は倶知安でNPO法人自然生活体験センター冒険家族を運営しています。子どもたちからは冒険爺、最近では冒爺と呼ばれています。NPOを設立して10年ですが、それをさかのぼると、さらに10年、自然体験場として倶知安町の施設を借り受けて体験施設を運営しておりました。

ニセコにも大きな流れがいろいろ起こりました。スキーのリゾート地で有名であり、第1次のリゾートブームのピーク時にニセコに移住して自然体験活動を始めましたが、スキー人口はどんどん減っていきました。最初は誰も来ないので校舎の修理をおこなっていました。そのうち地域や札幌からの学童保育の子どもたちが私たちの施設でキャンプをするようになりました。現在は外国人を含め多数の方が利用しています。

「伝承の森つくる会」は3年前にスタートしました。羊蹄山の裾野の周囲で町から5kmほどの所にある、湧き水が流れる森林の所有者と協議会をつくりました。活動には1回120名ほどの方が参加することもあります。数名の時もあります。運営している会員数は20名です。

私たちの活動は次の3つからなっております。

- (1) 2カ所の森を借り受け、管理しています。ひとつは羊蹄山麓にある5haの土地でたいへん荒れていました。もうひとつは共和町にある国有林で「遊々の森」事業の土地を借り受けています。
- (2) 森を使った資源の活用
- (3) 森での子どもたち向けの年間プログラム

羊蹄山麓の土地は、40年前には水田でしたが、現在は直径40cmほどの木が手を加えることなく成長して密林化し、立ち枯れ状態でした。そこで枯れた木を少しずつ倒して短く切って1カ所に集め、クワガタのすみかにしたり、土壌の改良材や堆肥として使っています。こうした活動には子どもたちも一緒に参加しています。

子どもたちはこの林で1年をかけて生活の場所づくりを行います。拾ってきた枝を使って、食事をするテーブルなどを作成しています。

#### 「森林資源利用」

イタヤカエデ、シラカンバ、クルミの樹液の採取を行います。さまざまなキノコを採取します。宿泊客から珍しいキノコについて教えられることもあります。ボルチーニがあったとたいへん喜ばれた大阪大学の先生もいらっしゃいました。薪もキノコづくりに利用しています。

#### 「教育・研修」

子ども対象に年間を通じた教育プログラムを組んでいます。3つのプログラムに基づいて、この森を利用しました。

##### ・山の中での道具(鎌、ノコ、ナタなど)の使い方。

幼稚園年長から中学1年生までが参加しているこのプログラムでは、常時子どもたちがナタや鎌などを腰からぶら下げています。

##### ・森の楽校

年4回、昆虫学の先生を招いたり、キノコについて学ぶプログラムなど、一般公募での講座を開催しています。

##### ・森ヨガ、森のキャンプなど

地元の小学生の参加が多いです。昨年度は、地元小学校の自給自足体験としてこの森にあるキノコや草花を採って料理をするというプログラムを実施しました。

最初は泣く子もいましたが、虫嫌いの子もたちも、森の中では慣れて気にしなくなります。森の中で思いっきり体を自然に委ねていくと、子どもの目の輝きは都会の中とは比べものにならないと思います。子どもたちの行動範囲は広く、興味対象が多数あり、夢中になるため、計画どおり年間プログラムを組んでも、予定通りに行かないのが現状です。

子どもたちは何かを発見すると仲間を呼んでそれを見せる、見せられた子どもも次は自分が何か見つけようと活き活きしてくる。この1年間で行ったプログラムでインパクトが大きかったのは、子どもたちが自然と一体になっていくということです。



薪づくりを実施



年4回の森の楽校・森のヨガ・森キャンプ・ほうけんくらぶなど実施



毎月1～2回森くらぶを開催 杭づくり

### 「森は発見の連続です」

森にはさまざまな発見があります。大人が想定すること以上の発見があり、体験の場であり、気づきの場です。こういったことは教科書で習うのは難しい。高齢者や田舎暮らしをしている方の知恵と、子どもたちがコラボすることで、すごい事ができるのではと思っていますし、こういう場が必要だと思います。

### 「五感を使うこと・食べること」

森で子どもが体感することは、五感を使うことと食べることとの感覚です。この森があり、資源があり、使う人間がいて、传承させていくということにつながります。

食べられる野草を集めて、湧き水を汲んで、薪を切って、火をおこして料理をつくる。こうした中で子どもたちは食べられる草や、

毒のある草などを覚え、どこにその草があるのかといった事を体得していきます。さらに蚊に刺されたり、ブヨに刺されたりした時、露の液が薬になることを自然の中で体験していきます。森がこうしたことを子どもたちに教えてくれます。

### 「今後の課題～後継者」

こうしたことを传承する人材、特に山が好きで、動植物に詳しくて、多様な知識を持っている方たちにはぜひ参加していただきたいですね。

### 「環境の配慮」

資源がたいへん豊かであり、この資源を守るためにも規制が必要だなと感じます。

### 「課題」

- ・人の育成
- ・スタッフの増員
- ・知恵者の参加

森林の変化を見守る活動は、私たちがやるべきだと思います。交付金の継続は大切ですが、自主自立する方向で考えることが必要です。そのためには受益者負担も必要ではと考えております。